

磐城大衆新聞

毎月二回 一日十五日發行
定額 一月五錢
廣告 一行五十錢
料 場所指定十錢増
發行所 編輯人 印刷人
長谷川 兵衛
前二十番地
發行所 磐城大衆新聞社

健康保險法改正から

醫藥分業に飛火

關係各労働團體が 内務大臣に陳情運動

健康保險事業の經濟的行詰りか情書に強要せる事は世人の周知の内務省社會局ではこれが最後の事實である。の打開策として現行法の改正を 藥劑師會は健康保險法の精神計劃し目下立案考究中である事を尊重し偏重なる現行法の改善は既報の通りであるが、被保險を要求したるに對して社會局は者側たる關係各労働團體では政醫師側の有利なるのみに努めた府の改正案は労働者の負擔を加ふる結果、日本藥劑會は斷然其の重ならしむるための最大改悪な 藥劑の給付を峻拒したるのでありとして猛烈に當局に對して大なる目下非常なる紛擾しつゝある反對陳情運動を起しつゝあるが、偶然か、輿論が今般各陳情運動に列擧された項目のあ 労働團體は現行法の徹底に改正る事は一般の興味を喚びつゝあ 呼び、被保險者の有利なるは分業制實施に依るのであると、而して醫藥分業運動は本來藥劑師會側の多年主張され、且つ政府案の提出と謂ひ、健保問題社會一般から其實施を期待されと云ひ、醫師側と採つては頗るつゝあり。去る五十九帝國議會衆議院に於て全會一致を以て分業は實施すべきものであると請願案は通過されたもの。即ち今六十議會に政府案として提出せらるゝは火を見るより瞭然たる事實である。

中小商工業者に

無擔保融資

預金部資金を融通 すぐく商工省が立案

然るに、日本醫師會なるものは商工業の中樞をなす中小商工業について百方手を盡す事となり爲政者の容認と一般大衆の輿論は最近不況と共に益々苦窮に陥主務當局では頃日来これが對策に狼狽色をなして極悪なる、分り事業休止のものも續出する有として融資に關し種々協議を進業實施反對運動を這般凡ゆる機様であり、この儘放置すれば商めてある。而して主務局ではこの關を動員して、而かも詐稱の手工業の前途に暗影を投する恐れの際中小商工業融資案の作成を段を採りて民衆を煽り調印を陳があるの政府はこれが救済策見たので大藏省とも打合せの必

和洋銅鐵金物問屋
電九九番
釜屋商店

要があるの川久保商務局長は大藏省富田理財局長と會見し種々協議を重ね、一方銀行業者側も懇談を遂げた結果、この際中小商工業に對する融資金金を以て與銀を通じ更に普通銀行經由で無擔保貸付を行はしむる事に大體方針を決定したので、近くこれが具體案作製可及的速かあると。(東京通信)

慰問狀發送

石城郡出身の滿洲守備兵に對して郡下各小學校では慰問狀を發送する事になつたが、慰問は特に無邪氣な兒童が赤誠を籠めて書いたものを送ることとし、これが方法について來る八日の郡教育部會總會で決定する。

大衆片々

政府赤字に苦しみて遂に公債發行の決心に固むと、寒心か改心か
▲六畜十菊のインキ政策に終らざれば幸ひなりと、全智全能のエホバは宜ふ乎
▲天下の輿論も地方政戰の勝利のみにては駄目と悟れりか、悟れるものは悔ひ改めざるものよりは稍々賢しと讚す
▲野崎滿藏氏自己の腕一本で二期生の合格者となる、義と熱に燃ゆる政治家唯だ敬服言葉なし
▲春秋に富み、伸び行く實力性

不景氣が生んだ

組合積立金の不明事件

平町字材木町の

は充滿せる男らしき闘士である。自重内省して徐々中央政界に進出すべき爲めに準備せよ
▲神は公平なる審判すべきものであると斷す
▲陰性の男、萩原君の當選は當然である、然し參事員戰で一生一代の味増をつけて男振り下げた事だ、先づ出る釘は打たる、たとへば少し反省を勧む
▲比佐昌平代議士の前途に、萩原君の態度に一苦言を呈する人々の多きは驚嘆に次ぐ悲觀である
▲民衆化せざる健康保險問題も遂に労働團體から分業實施の陳情運動化す、醫藥分業の實施は時代の要求である
▲政府は中工商業者の爲め更に低利資金の融通法を考究立案中である。不景氣に悩む中産階級以下を救ひ、善導せよ
▲平町材木町の積立金の○事件

非公式な無盡類似亦にはニコく顔で創一同は、呆然と狼狽たか、脱法的な積立金の趣旨を体して頗るの姿である。會は何れの町内にも順調に進んで居つ相互の貯蓄と金融をた、決算は年末を以て深くに襲來する昨兩立せる何々積立會て一期となつて居る今、如何せん悲壯なる名稱の下に堂々にも拘らず三ヶ年のなる嘆聲を洩して居る營んで居る、其御今日に到るも、明確多分を漏ざる副産物に其精算を忌避しての積立金配當不能に居るので、其内容に陥しめた怪事件の突不審を抱き硬骨漢の發は平町材木町に曝某會員が裏面を潜行露された?
其組織は、會員十驚く勿れ會長某君が一名の内責任者とし數百圓を私費したる、責任者は如何に會長一名と會計一の事が稍々明白に成處決するの覺悟あり名を互選し、最初つて來たので、會員や。否乎?

は不景の副産物たり乎
他人様の○をゴマカス獨り政黨加味の不良重役を有する○
○銀行のみならずやだ
血と汗とに據りて獲得した黄金も今少しく叮嚀に蓄財せよと吾人は教ゆ
朝夕の冷風一入り肌を刺し、轉た初冬の寂寞と自己建設の幻滅の悲哀を覺ゆ
然れども農村のみの秋の豊年に内神祭りの太鼓の音イトしく景氣佳しか

横から見た平町の料理割烹店の印象

(一) 谷口樓

平町の料理業界に君臨する谷口樓の印象を、イの一番に敬愛する諸君に報せんとす。

昔は五萬石而かも維新當時の大外交政治家たる安藤對馬守の御城下、平千軒、小名千軒と稱せしられて居た、昔は昔、今は今、鑛山界の一大發展で畸形兒の如く驚異的に膨脹した、オラガ平町、此の消費都市より更に生産都市に轉換し得たら當に市制施行の大平市となつたのは極く最近の事。平陽の天地に、燦然として光輝を放つて唯一の割烹店は、即ち谷口樓其物である料理の美味と整然たる建物、爽然たる各座敷、等賞揚するに枚擧の違なしである。

(二) 福榮亭

電話三三五番

平花柳界の一角に福を榮ゆるか榮ゆる福か、頗る色街に縁起よき所謂福榮亭である。

民衆主義の親切さを持つ、氣分よき料理店である。

店主佐藤善次郎氏は平町料理業組合長の玉座に鎮座まします温厚篤實の人格者である故に營業に關しても親しみのある事は何んと表現し得るかは難しえ位である、故に二六時中福を擔つて舞込む榮人のみで満員である。

將來大平市の料理店組合をリードして他市に劣ざる程迄に改善を加へ而して明かるき三業組合の建設の如き氏の手腕に任ねて可なりとするものである。

大いに大福榮王國の實現に努められん事を熱望して紹介の筆を擱く。

(三) 壽々喜亭

電話五八番

清爽な座敷、美味な料理、低廉の價、支店の紅裙諸氏の百パーセントの大サビユアース振等である。

田町藤田女學校前に一寸した庭園に頗るコツた料理店、即ち壽

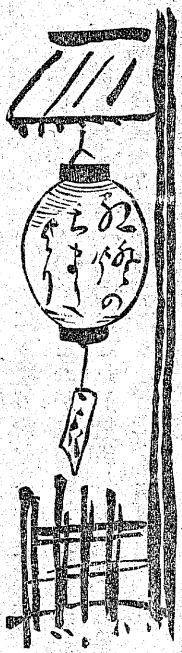
々喜亭である。御主人鈴木寅吉氏が義侠に富む熱心の人である。元は、汽笛一聲鐵道院頃大に青年官吏として氣焔の吐いた事もあつた。

感ずる處あつてか前記の場所、江戸見式の蒲焼や、小料理で聲譽も興行毎に其ファンは幾價を擧げつゝ、開業以來十幾星霜を閱し來つた。壽々喜亭と申せば義侠の仁丈けに何事でも引受けて御他人の爲め努力の惜ざる人である。

前平町料理屋組合の副會長で目下は、同組合の會計監、平町田町衛生區長の要職復た、傍らに平衛生會などを興して大に民衆の衛生思想の普及に努めて居る。

無銭で遊興し 自轉車乗逃げ

當時平町紺屋町居住石城郡錦村生れ天幕販賣業正木森之助、四〇は三日午後十時頃同町白銀町飲食店海野良雄方に無一文で遊興し歸りがけに家人の隙を窺ひ同家の自轉車を乗逃げした。



趣味として、長唄、常磐津、清元、何でも御座れだが、就中義大夫に於ては所謂竹本錦祥太夫の藝名は御本人で年二回位は町飲食店海野良雄方に無一文で遊興し歸りがけに家人の隙を窺ひ同家の自轉車を乗逃げした。

孤操界の新人某君、川前行きの豫約を實行せず遂に違約金の徴収に逢ふ、同〇人と謂ひ御氣の毒なりと思ふが。

▲去る日三好家〇子、某夜に×さんと紅葉見と御出張、其夜はね、立てた一重の浮世繪屏風、裏は涙の生獄」ですと

▲同家のよし姐さん、百パーセントのサビユアースだ好評然し東京のアさんに申した事はね、盪廻しの情夫さん、選舉誰れを〇〇でも同じ事」かね

▲保険付のレッテルの所有生、花橋姐さんの最近は如何ですと、誤心配の〇さんありました、誰れですか。

▲玉川の小巷君、泣いてあれきり別れた汀、思ひ出に見る後の月、小名濱が戀しいでせうか。

▲仲家の一寸助箱、先夜は〇〇でせうね、木の葉時雨に宿なし猫が、逐へば又來る軒の闇」は傑作々々

▲橋家の千代壽君、有聲座見物の中毒とは恐れ入りましたよ

平町仲田町

磐城無盡商會
電話三七八番

耳鼻喉科専門
平町南町

大和田醫院
醫學士 大和田軍司
電話一七〇番
(病室完備自炊の便あり)

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

開院(平町大町) 電話五〇二番

難波醫院
醫學博士 難波 睦
(入院需に應ず 自炊便あり)

内科・小兒科一般
大森醫院
醫學士 大森 勇
平南町(電話二五八番)

平田町

御料理
末廣亭
電話四二二番

平町田町(電話五二三番)

高久病院
醫學士 高久 忠
新潟醫學士 赤羽 清
藥劑士 佐竹 菊雄
内科、小兒科、外科、花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科

産科・婦人科専門
實川醫院
醫學士 實川彌太郎
平町田町(電話二七〇番)

專門内科一般
住宅時間(午前七時より午後十時まで) 但し急患は此限に非ず
平南町六五(元大和田醫院跡)
川井診療所
電話一八一番
醫學士 川井重之
女醫 川井安子

平町二丁目

た履物の御用命は
三井履物店へ
電話一五六番

院長 佐藤直信
佐藤醫院
泉 驛 前
電話一四番

平町三丁目

家具・漆器
箆筒・雜貨
問屋丸屋
電話三五九番

平町田町(電話二四番)

市原醫院
内科、小兒科 市原卯太郎
外科、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒淋病 市原三三男

内科、小兒科一般
花柳病科(入院需應)
藤沼醫院
院長 藤沼平次郎
平町紺屋町(電話五〇七番)

院長 醫學博士 石山謙郎
磐城共濟病院
本院主管 賀澤忠治
電話六四一番

平町田町(電話二四番)

市原醫院
内科、小兒科 市原卯太郎
外科、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒淋病 市原三三男